

## 総 評

森 哲子

北海道森林・山村多面的機能発揮対策地域協議会 副会長



今日は長時間にわたり、ご苦勞さまでした。活発な質問もいただき、ありがとうございます。

最後の質問(活動場所の選び方)に関して、補足したいと感じたので、先にお話します。どれほどの面積を活動地域として選ぶべきか、という点ですが、広い面積でも、狭い面積でも、どちらでも構いません。初めから広い面積を対象にして、初年度から大きな金額の交付金を受け、大勢の人を動かすやり方も可能ですし、反対に、大きな森の一部を活動地域と見なして事業計画を立て、少額の交付金で、3カ年ごとに場所を変えながら、時間をかけて事業を続けていく、というやり方もあります。みなさんが自立的に地域の森林を再生していくのに、どうい手法がいいのかを考えながら対象地区を決めていくと良いと思います。

本日は発表ありがとうございました。3つのグループはともに、とても森林愛の強い方々が事業に取り組んでくださっていました。

とりわけ「くりやま森の恵みを活かそう会」の岩崎会長の愛の濃さには、もう脱帽。感謝、感謝です。とても大きなエリアを手掛けていらして、そこに多くの人たちを上手に巻き込んでいらっしゃるのが「素晴らしいなあ」と思いました。地域のコミュニティのみなさんがどんなふう交流して「森林愛」を高めていっているのか、そこがよくわかる発表でした。

質疑応答でもポイントになっていましたが、次年度から「教育・研修活動タイプ」が交付対象から外れるなかで、地域コミュニティとの交流を活性化させるための活動をめぐって、いろいろ課題も出てくると思います。でも、これはみなさんの団体の広報のやり方次第の面もあると思うのです。先ほど協議会事務局からのアドバイスにもありましたが、民間の木育支援事業を活用するなど、ぜひ事業の継続と集客の工夫をしてもらえたらと思います。

「盤溪癒しの里山づくりプロジェクト委員会」の活動地域である「札幌この実会」さんの森には、私も10年ほど前、まだクマが出る前ですが、何度かお訪ねしたことがあります。知的障がいや身体障がいをともなう方々の健康増進を目的として森づくりを進めておられることもあり、安全確保にとっても注意を払っていらっしゃると思います。新聞広告を出してボランティアを募集するなど、さまざまな事業に取り組んでおられることを知ることができました。ザリガニやサンショウウオ、シカやリスと共存しながら、ゆるやかに森づくりに取り組んでおられる姿勢を、大いに評価したいと思います。

「真狩森の会」は、6人の所有者さんの森林を林道でつなぐという構想が「おもしろいなあ」と思いました。なるほどと思わされたのは、放置されてきた森林の中で50年前の林道を発見し、それを再利用していこうという発想です。思い切って足を踏み入れていかないと発見できなかったと思います。こういう活動が今後も続いていくといいなあと思います。ニセコあたりには本州や海外からの移住者が多いと聞いています。われわれ庶民は灯油で暮らしていますが、そうした移住者の中には、新しい価値観を持ち、割高でもおしゃれな薪ストーブを愛用されている人が多く、私自身も「うらやましいなあ」と感じています。そういう新しいユーザーを開拓して薪の販売につなげておられる事例は、里山での森づくりのヒントになると思いました。

みなさんの活動が、今日のような発表の場、また、みなさんご自身のホームページやSNSなど、いろんなメディアを通じて紹介されることが、地元市町村も含め、多くの方々の関心を高める機会になると思います。今後とも積極的な情報発信を続けていただければと思います。

本日は本当にお疲れさまでした。